

写真①～④柳野治示氏、⑤山崎武雄氏



ふるさと  
鬼北の風景 No.8

学童たちの夢の跡

昭和29年に建設された富母里小・中学校。建設時には小学校3年生以上の児童生徒が、炎天下のなか、屋根瓦上げの作業を数日間行ったそうです。昭和30年代には大雪による相次ぐ休校、昭和39年から開始された初めての給食には「うどん」が出されたことなど当時の様子が日吉村誌に残されています。一時は200人余りが通学していましたが、昭和40年頃から人口の流失が始まり、昭和46年に中学校が閉校。平成14年には小学校が惜しまれつつも閉校し、47年の歴史に幕を下ろしました。



板橋

かつては自然の岩や石積みにも板をかけて川を渡っていました。住民の生活になくってはならないものですが、道路・橋の整備が進んだ昨今は見かけることが少なくなりました。写真は父野川地区。



現役炭がま

ガスが使用され始める昭和30年代頃までは、ほとんどの家で木炭やまきを燃料として使用していました。当時は、山間部の農家を中心に、農閑期を利用した木炭の生産が盛んに行われました。



年中無休

県道下鍵山節安線を節安方面に走っていると視界の片隅に映る景色の中にかかしが2体。周りの景色に溶け込んでいるので、初めて見る方は夫婦が農作業をしているものと錯覚されるかもしれません。



足踏み臼

昨年末、父野川藤川の藤川正徳さん宅で行われた餅つきの様子。昔、精米などに利用されていた「足踏み臼」を使った珍しいものです。片足で踏み込んで杵を上下に動かし、餅をつきます。

\* 風景や伝統行事など町内の写真を募集しています。  
総務課行政・地域安全係（内線235）に写真（デジタルカメラの場合はデータ）をお送りください。